

水の源

2013.12

23

M I Z U N O M I N A M O T O

巻頭インタビュー 水源の里へ思いを馳せる

雅楽に表現される 古の英知と自然との調和

雅楽師 東儀 秀樹さん



ウォークルポ

「創造的過疎による 地域再生」とは

徳島県神山町

第5回 全国水源の里フォトコンテスト

水源の里発 おすすめご当地グルメ

山梨県笛吹市「黄美娘」ロールケーキ

京都府南丹市 九条ねぎソーセージ

万願寺とうがらしソーセージ

第7回 全国水源の里シンポジウムを開催
高知県大豊町

山形県飯豊町「中津川・小屋集落」



巻頭インタビュー

水源の里へ思いを馳せる

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」。「水源の里」の理念は、双方の地域に住む人たちがお互いの暮らしや環境への理解や感謝が通い合っていてこそ実現します。このコーナーでは、文化人・著名人に、そうした「水源の里」にまつわるお話をうかがいます。

聞き手：『水の源』編集長 町井昌 平成25年4月 グランドプリンスホテル京都にて

雅楽に表現される古の英知と自然との調和

雅楽とロックのコラボレーション

—東儀さんが作曲・演奏される曲は、いずれも古の時を思わせる懐かしいメロディーが印象的です。雅楽は代々、雅楽をつかさどる家系である楽家によって引き継がれてきたそうですね。

大宝律令（701年）で定められた制度にのっとって、東儀家などの楽家でのみ継承されてきました。今も続く楽家は五つくらいです。

—その家系の方々が宮内庁の雅楽演奏者となるわけですか。

そうです。でも、楽家だけでは数が足りないのので、今は一般公募もしています。楽家出身の演奏者は半分もいなくなっていました。

—フリーで活動されていますが、宮内庁の行事に関わることもあるのですか？

皇居に出向いて宮内庁の人たちと一緒に演奏することはないですが、伊勢神宮の遷宮行事で演奏することはありますので、皆無ではないですね。

—雅楽関連の教養番組のほか、NHKの大河ドラマ「篤姫」など、テレビ番組への出演もされていますね。

旅番組に出たり、NHKの日曜美術館という番組で神社の宝物についてコメントをしたり。多いのは音楽関係ですが、それ以外もオファーがあれば楽しんでやっています。



平成25年4月27日に顕本法華宗 総本山 妙満寺で行われた奉納演奏

雅楽師 東儀秀樹さん

雅楽師。1959年東京都生まれ。奈良時代から続く楽家の家系に生まれる。高校卒業後、宮内庁楽部に入り、箏・琵琶を主に、琵琶、鼓類、歌、舞、チェロを担当。1996年に発表したデビューアルバム「東儀秀樹」で脚光を浴び、2000年には「TOGISM2」で日本レコード大賞企画賞を受賞。その後もゴールドディスク大賞など、幾多の音楽賞を受賞している。舞台、映画、CM音楽を手掛けるほか、ドラマや映画へ出演するなど活動の場を広げている。



小学生から始めたギターは、ライブで演奏することも

—どういった場所で演奏されることが多いのですか？

神社関係、仏閣関係、企業イベントもあります。コンサートツアーもしていて、今年はバイオリニストの古澤巖さんと一緒に全国を回っています。

—雅楽はどのように習得されたのですか？

僕が雅楽を始めたのは遅いほうで、高校卒業後に宮内庁の式部職楽部に入ってから習いました。7年間の修業期間に、全ての楽曲を一对一で諳んじていくんです。

—ひとつの楽器を専門に修業されたのですか？

雅楽師というのは、すべてのジャンルの様々なパートをこなさなければならないのです。ですから僕の場合、メインとなる管楽器の専門は箏ですが、琵琶を弾くこと、打楽器を扱うこと、歌うこと、舞をまうこと、すべてを習得する必要がありました。僕は何にでも興味があったので、自己流で龍笛も笙もある程度吹けるようになりました。それに、音楽と人の関わりや精神性も理解したかったので、古文書を読んだり、関連の本を読んだりして、自分で学んでいきました。宮内庁の式部職楽部は、あくまで技術を追求するところなので、歴史の背景とか音楽との向き合い方、神仏の宗教的な考え方を教えることはないんです。

—東儀さんは雅楽器だけでなく、ピアノやチェロも演奏されますね。雅楽師で様々な楽器を扱う方は珍しいでしょう。

宮内庁の楽師は同時にオーケストラも手がけるので、洋楽器のひとつは必ず習得するのですが、さらにピアノやギター、ベース、ドラムなども演奏する楽師というのはほとんどいないと思います。

それらも全て自己流です。小学生のころから、音楽の反応というか音感が身についている自覚があったので、音楽の分野ならなんでもあるレベルまでいけると思っていました。雅楽を始める前からロックバンドを組んだり、ジャズを演奏したり、様々な音楽や楽器に触れていましたから、いろんな楽器とのコラボレーションは特別なことではなく、ごく自然に楽しんでいます。

——西洋音楽とのコラボレーションも多いようですが、雅楽の音階はどうなっているんですか？

雅楽は日本の伝統的な音楽だから、独自の音階があると思われている節がありますね。ですが、実は雅楽の音階はいわゆる西洋音階と同じなのです。ドレミの音階は3000年も前に東洋に存在していたので、わざわざ西洋音階と呼ぶことが不思議なくらいです。西洋でも東洋でも、人間が豊かに音をつなげて、豊かな表現をしようと思うとたどり着く、黄金律の音階がドレミなのだろうと思います。



ぎがく 大道芸・伎楽の復興

——伎楽の復興に力を注いでいるそうですが、伎楽がどんなものか教えてください。

1400年程前に中国から伝えられたセリフのない演劇で、大きな仮面をつけて演じます。奈良時代から平安時代初期を全盛期に、次第に衰退してしまいました。仮面や楽器の断片が正倉院に残されているので、形は復元できるのですが、音楽や物語、振りなどの記録はありません。

——伎楽の復興は、大変な作業になりそうですね。

時間がかかることです。伎楽の研究者は何人もいますが、ほとんどが歴史とかの学者で、演奏家や雅楽師ではないんです。雅楽は、伎楽の時代に一番近い芸能なので、特に音楽の面では雅楽を知っている人間が役に立つと思って携わっています。正統的な雅楽は、神や仏にささげるものとしての枠組みがある一方、伎楽はもうちょっとくだけた内容だったようです。そういったことを踏まえて、庶民が思わず手拍子をしたくなるような、こんなメロディーだったのかなとか、箏や笙の特徴を生かしたらこういう曲だったのかな、というふうに僕のイメージで曲を組み立てて

います。それと、伎楽は仏教的な道德心を教える役割もありました。パントマイムのような振りを見ただけで、言わんとするところが分かるようになっていくんです。そういう側面も加味して、僕なりの伎楽を作っていこうとしています。

——現在、伎楽はどこかで上演されているのですか？

毎年5月5日に、法相宗の大本山である、奈良市の薬師寺で上演されています。法相宗の始祖は西遊記で知られる玄奘三蔵法師といわれていますので、玄奘三蔵法師の物語に特化した、薬師寺独自の演出で上演されています。

——雅楽だけでなく、伎楽の復興にも力を注いでおられるんですね。ほかにもロック、ジャズ。さらにクラシックカーもお好きだとか。実に幅広い。東儀さんも我々と同じようにいろんなジャンルの音楽を聴いたり、スポーツをしたりするわけですね。

もちろんです。ほかに、バイクもダイビングも好きですよ。とにかくいろいろなことに興味があるんです。雅楽師として皇室の関係に勤めていたり、1400年続く家柄であったりするので、先入観を持たれることも多いのですが、けっこうワイルドなチャレンジャーだったりするし、普通の人たちと違う世界にいるわけではないですよ（笑）。



雅楽は、哲学や統計学、 自然と人間の調和が 織り込まれた完成度の高い芸術

——今日の妙満寺（京都市岩倉）の奉納演奏では、雅楽と陰陽道のつながりを解説されていましたね。

古典雅楽には、陰陽道の古代哲学や統計学、天文学、自然との調和などが織り込まれています。僕は楽師として、演奏だけではなく、こういった雅楽の背景も大切にしています。現代の我々が頭



鶴殿に自生する葦
写真提供：鶴殿ヨシ原研究所（調査・観察会実施）

大阪府高槻市の鶴殿にある葦原の葦が最適だといわれています。そこに高速道路が建設されると葦原が全部なくなってしまう、という噂が広がって、建設を反対する声が上がりました。便利になるために文化が失われ、伝統の音が変わってしまうのは良くないと思います。僕も反対の立場でしたが、昨年、当時の国土交通大臣と話をする機会がありまして、国も葦原の文化的価値を理解していると分かりました。国は葦の生態調査をしたり、葦原に極力影響を及ぼさないような橋梁の構造を検討したりしています。開発と文化、自然のバランスを取ろうと、国は既に動いていたんです。今は、闇雲に反対ばかりではいけないな、と理解しています。ただしこれについては国土交通省が僕に説明や約束してくれたことがウソでない、というのが大前提ですが。自然環境や文化について語る時、精神論ばかりになってしまうことがあります。データを集めるなど、現状や問題をきちんと理解した上で解決策を探らなければならないと思います。

インタビューを終えて

妙満寺でのコンサート後、宝ヶ池のホテルでお話をうかがいました。雅楽は全くの門外漢なので一抹の不安もありましたが、東儀さんはジャズやロックもお好きだと聞いて打ち解けました。終始一貫して音楽の話題から離れることなく、演奏家に徹する東儀さんの人間性がにじみ出ているような気がしました。

で理解することはできなくても、からだは感じるというか、知っていると思います。

——東儀さんもそのあたりを意識して作曲されているのですか？

全く意識していませんが、人間の感覚では気が付かないことが多いですし、自然にそうなっているのかもしれないですね。ただ「癒しになります」などと言って自分の音楽を発表するのは、おこがましいことだと思います。それに、陰陽五行説を織り込めた曲を作るなんてことは、昔の陰陽師ではないのだし、生半可にできることではありません。そういったことをおもしろいと思っている僕が現代の音楽を作っていて、自分でも気が付かないところで理に適った曲ができていたらいいな、とは思っています。

——最後に演奏された「ふるさと」は、多くの日本人の心に響く曲です。箏の響きも素晴らしかった。

僕も好きな曲ですし、ほとんどの人が知っている曲だと思うのでよく演奏しています。聴いた方は、ふるさとや両親を思い出すようですね。

——箏の材料となる葦の保全活動をされているそうですね。良質な葦原が広がる地域に新名神高速道路が建設予定だとか。

箏のリードは葦を材料にしているのですが、

東儀秀樹さんの作品

CDデビュー15周年を迎え制作された、自身初のカバーアルバム。アメイジング・グレイス、アヴェ・マリア、ニュー・シネマ・パラダイス、ヘイ・ジュードなど全12曲を箏による演奏で届ける。



『hichiriki ballad』
ユニバーサル ミュージック
3,150円



豊かな自然の中で営まれる「水源の里」の暮らし。
そこには、都会には無い魅力があふれています。
その一方で、都市部では想像もできない厳しい現実や苦勞があります。
このコーナーでは、そうした「水源の里」ならではの課題や
活性化への取り組みにスポットを当ててレポートします。

ウォーク
ルポ

徳島県
神山町

日本の田舎をステキに変える！

「創造的過疎による地域再生」とは

ユーザビリティに欠けるウェブサイト

「いったい、何を主体として活動している団体なんだろうか？」

本ページで取材することとなった「NPO 法人グリーンバレー」（以下、グリーンバレー）について調べようと、ウェブサイトを開いてはみたものの、よく分からない。「イン神山」というサイトタイトルもタイトルっぽくなく感じ、最初は「これが本当にトップページだろうか」と疑い、サイト内をうろうろと探し回った。「主な事業」として列挙されている事業も盛りだくさんすぎるし、一つひとつの説明が無いので全体像も推察できない。それでも「アート」「アーティスト」「空家再生」「棚田再生」「サテライトオフィス」「森」など、「ウォークルポ」の企画としては魅力的なキーワードが並び、苛立ちとは裏腹に興味は強まっていく。

その後、他のサイトなども調べていくと、どうやら近年、グリーンバレーが企画・運営する「ワーク・イン・レジデンス」という取り組みが注目を集めているらしいということが分かってきた。理事長の大南信也おおみなしんやさんは、グリーンバレーの代表として神山で日々奔走するのに加え、ワーク・イン・レジデンスについての視察対応や講演で多忙を極めているようだ。

「よし！取材のメインテーマはこれだ！」と、ようやく方針を固めることができた。

職種を指名して移住者募集

好天に恵まれた9月中旬、神山町を訪れた。取材させていただく大南さんは、つい先ほど、京都府から来られていた視察の対応を終えたばかりということなので、「お疲れでしょうから、少し休憩を挟んでいただいて……」と提案したものの、大南さんは「いやいや大丈夫だよ」と笑い飛ばす。その笑顔を信じ、取材を敢行した。

まずはワーク・イン・レジデンスについて尋ねると「逆指名」という予想外の言葉で説明が始まる。「誰でもいいから田舎暮らしに興味がある人に神山町に移住してもらおう、という発想ではなくて、将来を見据え、地域にとって必要となるであろう働き手や起業家を逆指名して公募するんですよ。例えば、“神山町でIT企業を起こしませんか？”とか、“商店街にパン屋が必要だから、パン屋さ



終始、明るい笑顔で快活に
対応いただいた大南信也さん

ワーク・イン・レジデンスの柱の一つ、サテライトオフィス第一号となった Sansan 株式会社（本社：東京都千代田区）の『神山ラボ』。古民家を再利用した居住スペースと、納屋を改装したワークスペースを整備し、子育て中の社員も家族と一緒に田舎暮らしをしながら東京と同じ仕事ができる環境で、名刺管理クラウドサービスの企画・開発・マーケティングを手がけている。



大阪から移住してきた夫婦が2010年に開店した石窯焼きのパン屋。石窯もご主人の手作り、燃料の薪集めや薪割りも自分たちの手で行う。



んを開業する人はいませんか？”といった具合に”説明を聞いて、一瞬、自分の耳を疑った。過疎化に悩む中山間地域では「移住者の職種や属性の要望を言ってもらえない。一人でも多く移住してもらうことが最優先」と考えるのが一般的であり、条件をつけた移住者募集が成り立つとはとても信じられない。

しかし実際には、石窯焼きのパン屋、IT企業のサテライトオフィスや研修施設、特産品である梅を使った料理が自慢のカフェが開業するなど、2010年以降、事例は10件にのぼる。その成功の裏には、いくつかの伏線があった。

町から移住支援事業を受託

伏線の一つは、グリーンバレーが町から移住支援事業を受託していることだ。自治体が展開する移住者支援策は補助金などの優遇策が多いなか、グリーンバレーは優遇策で釣るようなことはしない。住民側が移住希望者を「地域になじめるかどうか」見極めたり、「住民が希望するような移住者」を逆指名したりと、ユニークな移住支援活動が目立つ。そうした活動が可能なのも、町から移住支援事業を受託しているから。受託の経緯は、グリーンバレーの前身である神山町国際交流協会がスタートさせた「神山アーティスト・イン・レジデンス」（以下、KAIR）に遡る。

内容としては国内外からアーティストを一定期間招聘して創作活動を支援する事業だ。一般的には自治体や公立美術館が取り組むケースが多いが、神山町では住民主導で運営、学校の空き教室や遊休施設をアトリエとして活用するなど工夫を凝らしている。1999年の事業開始以来、毎年8月中旬から11月中旬の3か月間、3人のアーティストが滞在し作品を制作。11月初旬に展覧会を開催する。もちろん3か月のプログラム終了後も、希望すれば神山に住み続けられる。実際、2002年以降、毎年、KAIR参加アーティストが移住している。

「ここには、こんなに素晴らしい自然がありますよ、理想的な生活がありますよと、過剰なイメージを持たせて移住してもらっても、長続きはしませんよね。そうではなくて、ここにはクリエイティブな人が必要なんだと、実感してもらったうえで移住してもらえれば、ちゃんと神山にインしてもらえるんです」

ん？ 神山？ イン？……どこかで聞いたような単語だなあと考えていると、まるでそれを察したかのように、大南さんが続ける。

「だからウェブサイト“イン神山”も“デザインしすぎない”をコンセプトとしているのです」

思えば国内外からアーティストを招聘したり、廃校舎をアトリエとして活用したり、といった地域お

こしが 2000 年代に流行ったが、一時的な取り組みに終わったケースが多い。しかし神山町では現在、毎年3人の枠に100人以上の応募がある状況だ。大南さんの言う「デザインしすぎない」「過大な期待を持たせない」情報発信が功を奏しているのだろう。

2004年には神山町国際交流協会はNPO法人となり、グリーンバレーが誕生する。そして2007年、徳島県内8つの市町に移住交流支援センターが設置された。これは、移住希望者の様々な相談に対し、センターが地域住民や関係団体と連携しワンストップ窓口でサポートする施策だが、他の市町は自治体が窓口になるなか、神山町だけは住民団体であるグリーンバレーが受託した。

「KAIRを通して滞在中のお世話や移住の受け入れに携わっていくうちに、移住支援のノウハウが蓄積されていったんだよね」。大南さんの言葉どおり、外から人を受け入れる気風と体制をつくった功績が町から認められた結果であろう。

居住可能な空き家の不足

もう一つの伏線が、ネットインフラの整備だ。どんなにソフトが充実していても、それだけではワーク・イン・レジデンスには結びつかない。IT企業のサテライトオフィス誘致となれば、なおさらだ。神山町では、平成16年度の総務省補助事業で、光ファイバーによる情報基盤整備を町内全

域で実施しており、全世帯で高速光通信が使用できる。都会のように回線が混雑することもなく、快適な高速光通信が可能なのである。

こうした追い風の一方で、課題が無いわけではない。一番顕著な課題が、居住可能な空き家の不足。100世帯を超える移住希望に対して、供給が追いついていないのだ。

「空き家所有者の多くは“荷物整理が面倒だ”とか、“地域になじめない人が入ってきたら周囲の人に迷惑がかかりそう”といった悩みを口にします。そこで、荷物の撤去や清掃作業の代行、入居者選定のお手伝いを移住交流支援センターが担当することにしました」

移住交流支援センターが担当……とは言っても、実際に作業するのは運営を委託されているグリーンバレーである。反応は予想以上に良く、所有者は「支援センター側で責任を持ってもらえるのであれば……」と快く空き家を提供してくれるようになった。

「この事業の狙いは、国内外のデザイナー、カメラマン、映像作家、建築家、ライターなどに対して、短期間、仕事に集中できる静かな環境を安価で提供する代わりに、滞在者には自分の専門分野を生かした、何がしかの変化を神山に残してもらうことにあります」

創造的な仕事をする人たちが「神山は面白そう

だ」と関心を寄せて町にやってくるようになれば、彼らの存在が新しい神山のコンテンツになり、さらに新しい面白い人呼び寄せるという連鎖と循環が起きていると大南さんは分析する。

地域づくりは「土づくり」から

こうしたなか、大南さんが目指すのが「創造的過疎による地域再生」である。これは人口減少や過疎化という現実を率直に受け入れ、外部からクリエイティブな人材を誘致することで人口構造を変化させ、地域を持続可能に変えていく、という考え方だ。毎年、何人のUターン、Iターンがあれば、地域が存続していけるかはっきりした数値を算出し、その未来像に向かって活動が続けるといふ戦略である。

「住民が動き出すことで変化は起こせます。ただし、やみくもに動いても成果はなかなか得られません。将来、どんな町にしたいのか、ビジョンを描いて、そこから逆算しながら動き続けることが大切です」と、大南さんの目は常に先の先を見つめる。

実は神山町は、かつて、過疎高齢化に悩む地域を自力で活性化させた代表的な事例として、すっかり有名になった「葉っぱビジネス」の町・徳島県上勝町の北隣りに位置する。当時、全国から上勝町に視察が殺到したのと同様に、現在は神山町の手法を学ぼうと視察が相次いでいる。大南さんの大らかなお人柄に甘えて、ふと、意地悪な質問をぶつけてみた。

「IT企業のサテライトオフィス誘致やワーク・イン・レジデンスのアイデアや手法を学んで、過疎や高齢化の課題を持つ他の地域に持ち込んだとして、果たして成功するものでしょうか」

一瞬、考えるような仕草を見せた後、ゆっくりとした口調でこう答えた。

「土がよくなければ、よい作物が育たないのと同じで、ある場所での成功事例をそのまま別の場所に持ち込んでも、思ったとおりの結果は出ないでしょうね。地域づくりは、まず、土づくりから始めるものじゃないでしょうか」

【取材・文：竹市直彦】



神山町は こんなまち

徳島県のほぼ中央、緑のなかを流れる清流と四季の変化に富んだ深谷美を誇る鮎喰川の上流に位置する。静かな町のあちこちには、幻の王国「邪馬台国」の女王として知られる卑弥呼にまつわる数々の伝説を残す古寺や旧跡をはじめとする名所や景勝地が点在している。



スダチの生産量日本一、梅の生産量四国一を誇る。昭和30年に、五村の合併により誕生した当時は人口21,000人を擁したが、現在は6,240人(2013年4月現在)。

取材を終えて

「これまでに無く、膨大な情報量が詰まった取材」というのが率直な感想であった。誌面に制約があるので触れられなかった、大南さんならではの「人と人のつながり」がたくさんあった。普通では考えられない、第一線で活躍する建築士やIT企業の社長との出会い、志の高いアーティストとの交流など、創造性のある人の集積こそがワーク・イン・レジデンス成功の鍵だと感じた。筆者は、本誌以外にも、都市農村交流や地域づくりのキーパーソン取材する機会が多いが、そうしたときに意識しているのが「志か、野心か」。以前、ある若い首長さんが教えてくれた、どちらなのかを見極めるコツ「野心であれば、集まるのは信奉者ばかり。志には、信奉者も寄ってくるが、一緒に汗を流す仲間や後継者が必ず現れる」を参考にしながら、お話をうかがうようにしている。大南さんを突き動かしているのは、間違いなく志だと感じた。



平成25年7月にオープンした、番組情報(メタデータ)の運用・配信で国内大手、株式会社プラットイーズ(本社:東京都渋谷区)のサテライトオフィス「えんがわオフィス」(上および右上)と「蔵オフィス」(右下)。サテライトオフィス開設に伴い、神山町を本社とする地元企業「株式会社えんがわ」を新たに設立、テレビ番組や映画などの4K、8K映像素材を長期保管する「デジタルアーカイブ事業」を展開する。

第5回 全国水源の里

フォトコンテスト

グランプリは、福島県昭和村で撮影された「森の恋人」に決定

水源の里の生活や文化、四季折々の表情などを写真に収めていただく全国水源の里フォトコンテスト。応募総数 475 点のなかから、グランプリ (1 点)、各大臣賞 (3 点)、特選 (10 点) が決定しました。各賞入賞作品とともに田沼特別審査員の総評、受賞者のコメントを紹介します。ご応募いただいた皆さま、ありがとうございました。

● 審査委員長 **井上 隆雄** (いのうえ たかお) ● 特別審査員 **田沼 武能** (たぬま たけよし) ● ゲスト審査員 **永田 和宏** (ながた かずひろ)

総評

水源の里をテーマにしたこのフォトコンテストには、毎年ユニークな作品の応募があります。写真を撮ることで水源の里を理解するきっかけになってほしい。そういう思いで開催し、今年で5回目となります。清らかで美しい川など、水源の里には思わずカメラを向けたくなる被写体がたくさんあります。いい写真を撮るためには、被写体をよく理解することが大切です。このフォトコンテストをきっかけに、水源の里のどんなところが素晴らしく、どんなところを大切にしていきたいかを考えていただきたいと思います。生きていくと、たくさんの感動に出会います。その体験が人生をすばらしいものにしていきます。感動の場面を写真に撮って、来年も応募してください。

特別審査員 田沼 武能



森に棲む生物と森の水の組み合わせを撮りました。撮影した昭和村の卵池では、6月に入るとモリアオガエルの産卵が始まります。日本各地に生息しているカエルで、木に産卵する姿をよく目にします。毎年見に行っていますが、オスとメスが一緒になって水に浮かんでいる姿は珍しく、思わずカメラを構えました。水面から出ているカエルの表情と水中の足の写りをバランス良く表現できたと思います。

第5回 全国水源の里フォトコンテスト
グランプリ
『森の恋人』
福島県昭和村
たごやすひろ
田子保浩さん(福島県いわき市)

第5回 全国水源の里フォトコンテスト
総務大臣賞
『じゅんさい採り』
兵庫県多可町
かとう せいじ
加藤 誠司さん(兵庫県姫路市)

古くからジュンサイが生ずる多可町の逆池で行われる、ジュンサイまつりの一コマです。山間の池にたらい舟が浮かぶ田舎の風景。この古き良き日本の文化をいつまでも忘れないでほしい。昔も今も変わらずに子どもは無邪気に元気でいてほしい。という思いを込めて写真を撮りました。大人になってこの経験を懐かしみ、またここに帰ってきてほしいと思います。いつまでも残したい風景のひとつです。



第5回 全国水源の里フォトコンテスト
農林水産大臣賞
『せつぺとべ』
鹿児島県日置市
やまだ こうさく
山田 宏作さん(鹿児島県霧島市)

タイトルの「せつぺとべ」とは、薩摩の方言で「精一杯跳べ」という意味です。写真は、約400年前から地元の神社に伝わるお田植え祭りのクライマックス。豊作を祈願して、白装束をまとった若い衆が御神田の中で円陣を組み、唄い、勢いよく飛び跳ねます。目をつけた紅一点の円陣は、中央の女性が男衆をひときわ盛り上げていました。楽しさと一体感溢れる作品に仕上がりました。

第5回 全国水源の里フォトコンテスト
国土交通大臣賞
『厳寒の阿蘇』
熊本県阿蘇市
あさくの くにお
浅久野 邦雄さん(熊本県阿蘇市)

阿蘇草千里ヶ浜を一望できる展望駐車場で撮影しました。九州は暖かいイメージがあると思いますが、ここは阿蘇山上の標高約1,000mの高地で、真冬は氷点下15~20度になるところです。この日は日中でも氷点下の気温で、左右に広がる湖も凍り、白一色になっていました。この作品のような厳寒の風景を撮りたいと思い、凍った道を何度も通って撮影に出かけました。



水源の里
発

おすすめ
ぶ当地
グルメ

「黄美娘」ロールケーキ 1,890円

ふえふき
山梨県笛吹市

東京からほぼ 100km 圏、甲府盆地の東寄りに位置する山梨県笛吹市。市の名の由来となる笛吹川とその支流が創り出す肥沃な土地の恩恵を受け、市内一円には果樹園が広がります。中でも桃・ぶどうは、栽培面積・収穫量・出荷量いずれも全国第一位！春にはまち全体が一面ピンク色に彩られ、『桃源郷』と称される美しい景観をおこなします。

“桃・ぶどう日本一の郷”で話題を呼んでいるご当地グルメが、地元産の桃「黄美娘」をたっぷり使用したロールケーキ。「黄美娘」は、笛吹市御坂町の農家数軒でしか栽培されておらず、収穫時期も短く、市場にあまり出回らないため、地元でもなかなかお目にかかれない幻の桃。桃でありながら、完熟すると果肉は黄色からオレンジ色に変化。マンゴーのようなトロピカルでフルーティな味わい、優雅な香り、甘味と程よい酸味で近年注目を集める人気の品種です。

お取り寄せのロールケーキは、冷凍で送られてくるため、冷蔵庫で3～4時間解凍していただきます。新鮮な卵とバターをたっぷり使用した生地は、手で持つとつぶれてしまいそうなほどふわふわ！中には、「黄美娘」の芳醇な香り漂うコンフィチュールシロップと、マスカルポーネに生クリームを合わせてホイップしたオリジナルクリーム。さらに桃の果肉がゴロゴロ。生地の軽い口当たりと、濃厚なクリーム、フレッシュで瑞々しい「黄美娘」の爽やかな甘味が絶妙にマッチ！食べると思わず、「ん～幸せ♡」と笑顔になる極上スイーツです。

商品は毎年、「黄美娘」のコンフィチュールがなくなり次第、販売終了となる限定品。桃の収穫が終わる8月末頃から秋冬にかけてのシーズンにはぜひお見逃しなく。

【取材・文：白波瀬聡美】

✉ info@budou-sato.com
http://www.budou-sato.com

【お問い合わせ】

手作りケーキ&
チョコレートの専門店
葡萄の里

〒406-0031
山梨県笛吹市石和町
市部 977-26
TEL 055-263-4866
FAX 055-263-4177



九条ねぎソーセージ (150g) 650円 まんがんじ 万願寺とうがらしソーセージ (160g) 650円

なんたん
京都府南丹市

ソーセージやベーコン、ハムの素材はもちろん、燻製材料の木炭にいたるまで、地元美山町とその近隣のものにこだわって使用しています。

京都府のほぼ中央部に位置する南丹市。緑豊かな自然に恵まれた地域は、日本の原風景が残るかやぶき民家群、日吉ダム、り溪高原、清源寺の十六羅漢像などの観光資源を有し、みず菜、壬生菜、九条ねぎ、黒大豆、紫ずきんと言ったブランド京野菜の産地でもあります。

南丹市でオススメのご当地グルメが、美山牛乳や美山名水で有名な美山町の手作りソーセージ。原材料は地元京都の親鶏と厳選した京都府産豚のブレンド。素材ごとに、3種類の天然塩と10種類の香辛料を組み合わせ合わせて調合します。季節や雄・雌で異なる肉質を見極め、一つひとつ丁寧な職人技で仕込まれる製品は添加物不使用。『手造り・無添加』にこだわったソーセージです。

今回ご紹介するのは、美山名産の九条ねぎと万願寺とうがらしを使ったソーセージ。九条ねぎソーセージ

は、3～5分間ボイルした後、水分を飛ばし油を引かずには焼くのが美味しい調理のポイント。パリッとした皮の中には、しっとりふわふわのお肉。ねぎの味と香りを活かしたノンモークソーセージは、ハンバーグのような味わいとジューシーさで、子どもにも喜ばれそう。そのままでも美味しいですが、からし醤油などをつけていただくとこれまたオツな大人味に。

スライスタイプの万願寺とうがらしソーセージは、両面を軽くソテーしていただきます。直径9～10cmほどのソーセージには、赤と緑の鮮やかな万願寺とうがらしがたっぷり。素材を活かした薄めの塩気もちょうど良く、噛めば噛むほど、万願寺独特の甘味と風味が感じられる逸品です。

【取材・文：白波瀬聡美】

鹿肉に豚脂を入れ、鹿のクセを控えた珍しい「鹿ソーセージ」も、低脂肪・高タンパク質・鉄分豊富なヘルシーソーセージとして人気です。

【お問い合わせ】

美山おもしろ
農民倶楽部

〒601-0724
京都府南丹市美山町
内久保池ノ谷 33
TEL 0771-77-0884
FAX 0771-77-0890

✉ nomin-club@k5.dion.ne.jp
http://www.miyamahamu.com



↑
「黄美娘」は“幸せを呼ぶ黄色い桃”と言われる笛吹市の名産品。



↑
「食べる洋酒」をテーマに、山梨県産の葡萄、巨峰、甲斐路のレーズンをワインに漬け込みチョコレートに仕上げた「レーズンシヨコラ」も人気の逸品。

第7回 全国水源の里シンポジウムを開催

「水源の里に生き続ける ～大豊から世界へ～」をテーマに

9月26・27の両日、高知県大豊町で第7回全国水源の里シンポジウムを開催しました。高原に位置する「ゆとりすとパークおとよ」を会場に、秋晴れのもと自治体関係者や地域住民ら約400人が参加。基調講演、パネルディスカッション、現地視察などを通じて水源の里集落再生に向けた熱心な議論や意見が交わされました。このうち、基調講演と現地視察の様子を報告します。

26日
1日目

基調講演

「日本に“水源の里”はいらないか？」と題して、小田切徳美さん(明治大学農学部教授)が、基調講演を行いました。

はじめに、地方の時代と言われた1970年代や小泉構造改革が進められた2000年代前半などを例に挙げ、農林業・農山村に対して温かい時代と冷たい時代が繰り返されてきた歴史を説明。2010年代はTPPや道州制、コンパクトシティの議論に見られるような、農山村にとって冷たい時代が始まろうとしていると警鐘を鳴らしました。

一方、農山村に対する政治からの視線と国民からの視線に大きな隔たりがあることを強調。農山村への移住希望者が50・60歳代だけでなく、20歳代の若者で増加していること、600人もの若者が地域おこし協力隊として全国各地の市町村に入っており、その多くが「地域で働き貢献したい」「活動を通じて定住したい」という熱い想いを抱いていることから、農山村に対する視線が若者から変わり始めていると述べました。

このような局面では、農山村の理念を共有化すること、若者たちと手を結びながら自分たち自身の力で農山村の地域づくりを進めていくことが重要と説きました。具体的には、国際的な投資先である4つの資源「食糧」「エネルギー」「水」「二酸化炭素の吸収源」を供給している農山村が、戦略地域となり得ることを認識し、若者・国民・政府で共有化していかなければならないと訴えました。続けて、農山村の地域づくりに必要な3つの要素を説明。一つめは、その地域に住み続ける誇りや意義を確立させる「暮らしのものさしづくり」。二つめは、女性や若者も参加できる新しいコミュニティを作り上げる「暮らしの仕組みづくり」。三つめは、地域でカネを産み、地域に再投資して発展していく「カネと循環づくり」。さらに、都市農村交流によって地域の資源や宝が発見されていること、交流産業はリピーター率が高く大きな成長産業となる可能性を秘めていることを述べました。

最後に「地域づくりの3つの要素に都市農村交流を組み合わせることで、地域づくりの道筋が見えてきた。一步一步前進し、温かい風を呼び込みましょう」と呼びかけ、講演を締めくくりました。



基調講演で水源の里にエールを送る小田切徳美さん

27日
2日目

現地視察

最初に今年8月に操業を開始した、四国最大級の製材工場「高知おとよ製材株式会社」に向かい、オートメーション化された製材加工の工程を見学しました。

その後、Aコースは早明浦ダムを見学。ダムの機能や構造について水資源機構の職員から説明を受けました。

Bコースは、標高400～700mに位置する山村集落を訪問。多くの写真愛好家が訪れる八畝地区には、急峻な斜面に棚田が広がっていました。穴内地区では、



多種多様な製品に対応する製造ラインを見学

郷土料理の「こんちん」や地元産ゆずジュースに舌鼓。参加者らは、農家数名で立ち上げた「穴内あけぼの会」の体験型交流の活動について説明を受けました。

標高400～700mに位置する山村集落



第7期総会を開催

9月26日(木)、高知県大豊町で全国水源の里連絡協議会第7期総会を開催しました。第6期事業と決算見込みを報告し、第7期事業計画と予算を決定しました。また、会費の見直し、会計年度の変更を内容とした会則の改正、役員改選を提案し、原案のとおり承認されましたので、報告します。

■ 会則改正

会費

- ・市町村の単独加入：年額2万円
- ・都道府県単位の団体加入：年額10万円と団体加入数に1万円を乗じた額を加算した額

会計年度

毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。ただし、第7期については、平成25年12月1日に始まり、平成27年3月31日に終わるものとする。

■ 役員体制

会 長	京都府綾部市長	山崎 善也
副会長	福島県喜多方市長	山口 信也
	山梨県甲州市長	田辺 篤
	岐阜県揖斐川町長	宗宮 孝生
	島根県邑南町長	石橋 良治
	高知県大豊町長	岩崎 憲郎
	大分県佐伯市長	西嶋 泰義
監 事	北海道中川町長	川口 精雄
	和歌山県田辺市長	真砂 充敏
顧 問	初代会長	四方八洲男

第8回全国水源の里シンポジウムは、和歌山県田辺市で開催されます

■ イキイキ指数の創設にご協力ください

京都府綾部市では、NPO法人ビーグッドカフェと共同でイキイキ指数の創設を目指しています。イキイキ指数は、水源の里集落でイキイキと暮らしている人々の「幸せ度」を見える化する取り組みです。全国水源の里連絡協議会の参画市町村へ参加を呼びかけていきます。ご協力をお願いします。

■ 『水の源』バックナンバー閲覧

発行から一定期間を経過した号について、協議会HPにて閲覧いただけるようになりました。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.suigenosato.com>

「水の源バックナンバー」のバナーから

13号～20号
掲載中!

読者アンケート&プレゼント

『水の源』では、今後の誌面づくり充実のため、読者アンケートを実施しています。アンケートにお答えいただいた方のなかから抽選で、おすすめご当地グルメのコーナーで紹介しました「九条ねぎソーセージ・万願寺とうがらしソーセージ」が「黄美娘ロールケーキ」を各1名様にプレゼントします(賞品の指定はできません)。



はがきに、①面白かった記事 ②今後取り上げてほしい内容 ③水源の里への思いなど、あなたのご意見・ご感想、住所、氏名、電話番号、性別を明記の上、下記宛先『水の源23号』読者アンケート係までご応募ください。

【平成26年1月10日(金)消印有効】

※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

※ご応募いただいた皆様の個人情報は、賞品発送以外の目的では使用いたしません。

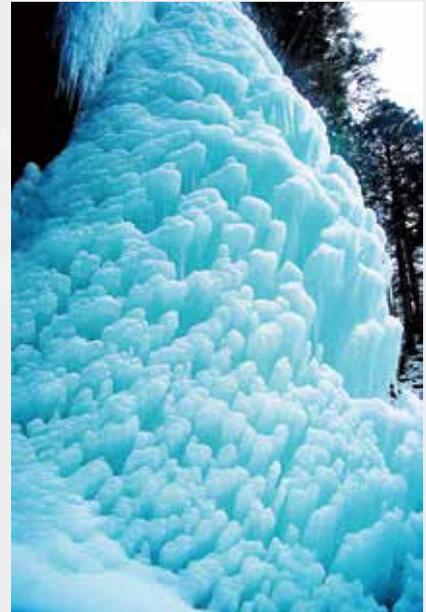
お問い合わせ、ご連絡先は

▲全国水源の里連絡協議会 事務局

綾部市役所 定住交流部
水源の里・地域振興課
(上林いきいきセンター)
〒623-1122
京都府綾部市八津合町上荒木5番地
TEL:0773-54-0095
FAX:0773-54-0096
E-mail:suigen@city.ayabe.lg.jp
<http://www.suigenosato.com>



「青田日和」 福島県喜多方市
渡部 善二さん(福島県喜多方市)



「荘厳の蒼」 長野県王滝村
石井 萌乃さん(長野県王滝村)



「春のほだし」 京都府福知山市
鈴木 隆さん(京都府綾部市)



「視線」 福井県おおい町
知見 治さん(福井県おおい町)



「施餓鬼供養」 高知県大豊市
藤本 正昭さん(香川県善通寺市)

私たちは水源の里を応援します!!

全国環境整備事業協同組合連合会
 一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
 全国森林組合連合会
 一般社団法人 全国清涼飲料工業会
 全国農業協同組合連合会

電気事業連合会
 独立行政法人 水資源機構
 綾部トーヨーゴム株式会社
 公益社団法人 大分県薬剤師会
 株式会社 神内電機製作所

株式会社 関西丸和ロジスティクス
 医療法人社団 恵心会
 日東精工株式会社
 社会福祉法人 丹の国福祉会
 舞鶴喜楽鋳業株式会社